



定部金貳錢 廣五號十二行 刊休日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
 郵税五厘 料告字請一行 日刊日 印刷所本社専屬 陽社

刊夕日五廿月一十

寄書
農村教育 中山雅司
 石城この狭隘なる山間に
 も耕すべき幾多の、荒地地
 があり青年の努力を待ち望
 んで、居るではないか
 朝早く黎明の氣を吸ふて
 星光に頬をほてらし、夕べ
 に疲れを月光にさらして、
 馬の尻を追ひ、業を終えて
 湯浴する心神の愉快さは、
 都會に住む羽織ゴコの生活
 にくらぶべくもなく、寧ろ
 彼等の廢穢な滑稽さを、
 痛罵して尙且つ憫笑を禁せ
 ざるを得ぬ、
 眞實に農に歸れと叫ぶ自

然の聲に醒めたる農村の青
 年は、強く生き且つ剛健な
 る精神を保持せんとする上
 に於て、百姓の子は百姓の
 子で生活する事が、その本
 然の特性ではないか
 乍併我が農村は明治維新
 以來五十餘年を経るも、表
 面にも内面的にも果してど
 れ程の進歩を見たか、頗る
 疑はれる
 鐵道の電化、無線電活の
 世の中に電燈の恩恵にすら
 も、浴するを得ず馭者馬を
 曳、の姿依然たる、農村の
 現状を都會の文明文化のそ
 れに比して、餘りに甚しい
 相違ではないか
 不生産的なる祖先傳來の

土地に固執し、祖先傳來の
 非文明的な、農具を使用す
 る者に對して徒らに『農村
 振興』の押賣をしたとて、
 それは駄目である、先以て
 根本の教育制度から改善し
 始めねば、ならぬ
 虐げられつつある農村と
 農村の子弟を、救済するに
 は教育の外にはない、併も
 其教育は土に親しむ偉大さ
 が、基となつて、都會集中
 を促す如き輕薄なる教育で
 はなく、眞に土に親しみ、
 土を活かすべき處の教育で
 なければ、ならぬ、而して
 教育費の如きは、其全額を
 國庫の負擔とするが、當然
 であるまいか、

建築材料
 一、磐城セメント樽入 袋入
 一、板ガラス各 種 種
 一、壁用材料各 種 種
 一、ペンキ塗各 種 種

セメント、板ガ
 ラス安價になり
 ました、
 御照會を乞ふ

磐城セメント株式會社代理店
西村屋藥舖
 平町二丁目 電話園三番

私の川柳
 ノートから 新島新坊

善後策重役室に灯がとも
 知らんぞ知ると平氣な顔
 で寄り
 結婚をしてから知つた液
 臭なり
 差向ひ子が欲しいよなこ
 とも云ひ
 若返る法はこれさと小指
 出し
 姐さんが来ると半玉座を
 外し
 メーカーに刑事法被を着
 て出掛け
 出不精が洋服を着る花日
 和
 賀札が新しくなる衣更
 交際費社長は遠慮なく遣
 ひ

美味で評判の
遠藤パン
 (平驛前)

漆器指物 和
和久井屋漆器店
 目丁一町平 卷五〇四話電

山古印醬油
古
 美味 經濟
 元造 鹽
鹽屋本店
 番七二話電

◎おいしいものは
 誰方でも好きです
 早くマツモトヤの甘納豆を
 召上り下さいませ

目丁四町平
マツモトヤ
 番四一二話電

ガカ
 使用に耐ぬ鏡も安價で新品と同様
 に直す鏡の修繕處は
古鍛冶町通り 芳光園油店
 (外に新品大小鏡各種取揃へてあります)

先般二三新聞紙上に加入者との間に契約違反の行爲
 ありたる旨掲載されしは本社と社名類似せる日本恒
 産合資會社にして本社は基礎強固、信用確實、現に
 當支社に於ては營業案内貸出規定に基き加入者に金
 融の便を圖りつつあるを以つて此際誤解なく充分に
 御信用の上簡便なる金融機關として御利用の程を願
 上候
 尚ほ御一報次第營業案内進呈仕候
東京恒産合資會社磐城支社
 平町郡役所前通り

株式賣買中値
 電話に金融致し

銘格 拂込 時價

磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	五〇〇	四二〇
磐城實新	三〇〇	二八〇
田村實銀	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二五〇
同 新	一五〇	一九〇
同 新	五〇〇	五五〇
同 新	一一五	一六〇
同 新	一一五	九八
郡山電氣	五〇〇	四三五
同 新	二五〇	一九五
只見川電	一一五	七五
植田水電	一一五	一五五
好間水電	一一五	一三〇
磐城製菓	二〇〇	六〇〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	一八〇
好間軌道	五〇〇	三〇〇
入山新	三三五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同 新	二二五	一八〇
磐城セメント	五〇〇	六五〇
同 新	三五〇	四四〇
平運送	一一五	八〇

賣買誠實懇切機敏に御取扱
 申候間多少不拘御用命願
 上候

平町田町 電話三三三番
丸登株式
 川添房二郎

異性に思ひを焦す 交換嬢の大タンゴよ

電話口へ。幾度も幾度も
其時刻他の電話は交換不能

平局に働く数多い交換嬢の群れ……うら若き、乙女達が繁忙な電話の應接に懸命な努力を其處に注ぐ、それは可憐なもの、極みである、けれど其彼女達も比しく人の子の常としてもの、哀れを知り初めた惱ましさに、年若い異性に憧れの想いを燃やす、而もそれは責任の重い身としてのをきてから云ふ迄もなく厳しく戒められて居るのである、本紙は此處に可憐な彼女達の将来に過ちならしむると共に交換事務の敏活を期して平町の人々に便益多からん事を祈つて左の事實を茲に報導しなければならぬ。

昨夜七時半頃一名の紳士が活動常設館有聲座の電話口に立つた、ベルを鳴らして受話機を耳にした時、交換嬢の四邊をはばかす聲で「あなたは有聲座ですか」と云ふとして「済みません、が琵琶の大原さんを一寸電話口へ……」との事に電話の前の紳士は交換嬢の餘りにぶしつけな然も思ひ切つて大膽な行動に驚きの眼を見張つた、早速此旨を館の者に取次いだ時

仲賣り の婆さんが皮肉な笑へを口邊に浮べて「今度に限つた事じゃあないんですよ、交換手の中に屹度一人悪いのがあるんです、今頃の時間になると大原さんを電話口へと何回か掛けて来るんです、それでも大原さんは若し間違へがあつて自分の

人氣に 障る様な事

みどり送別會 平第一尋常科大正四年度卒業生を以つて組織せるみどり會は會員新妻延太郎、山澤健三の兩君が人營する爲め廿六日午後六時から末廣で送別會を開く

新出町の 火事騒ぎ

今朝の五時頃
平町新出町通り、藝妓屋三島

乗合自動車 の 仰向け様に轉覆

運轉見習や乗客が重傷

石城郡小名濱、泉間を連絡する海岸軌道株式會社所有の乗合自動車昨日午後四時半頃泉間から乗客五名を乗せて小名濱に向ふ途中泉村字瀧尻池内に差懸つた際疾走し來つた自轉車を避けんとする機に田中村中に墜落し仰向け様に轉覆した爲め運轉手見習成田榮太郎(三)は左肋骨を強打して人事不省に陥り乗客中小名濱商事専務小野務平氏は右肩骨折に及ぶ重傷を負ふたが運轉手大里善治、助手馬目

幼女が馬車に 轢かれて危篤

轢かれて危篤

平町字五丁目澤畑宣吉二女八重子(四)は昨日午前十一時頃兄に伴はれて新出町の理髮店に行きその歸宅の途中石城郡内郷村字宮荷馬車挽草野重藏(五)の挽いて來た荷馬車に轢かれ胸部打撲



納豆の榮養

納豆は、消化がよくて滋養が多く、そして割合に價が安くて、廣く民衆的の日常

久右工門は奇蹟の如く身に微傷にも負はず其他の乗客は何れも打撲傷を負つた因に小野専務の負傷は全治一ヶ月を要すると

常磐片々

平町に無届煙突百五十本、ニヨキリと立つて隠せぬだけに罪がない

四歳の幼女が馬車に轢かれた、子を持つ親への警告

新出町の火事騒ぎに附近の屋根上千姿萬態の腰巻き寒風に、飄たり

祝融子も流石に鼻向けがならぬとチジミ上つて小火

錦水流温習會 平町 警水會平手錦腹氏の門弟一

音楽演奏會

當日の曲目
既報警城高等女學校々友會音楽會は来る卅日午前九時から同校講堂に於て開催されるべき筈であつて目下極力練習中であるが當日は田中教諭の獨唱及びオルガン獨奏ある爲め非常に期待されて居る因みに當日の曲目は左の通り

△ニコ〜ピン〜の歌

一、三△野山の秋興、三△オッフアトリ、薄キョ△秋の時雨、四△ア〜ベマリヤ、本多ヒデ△舞踏、一△二△鈴蘭三井タケ△晴天雨天、二年生全部△晚鐘、四△一△野邊の祈り、石坂富美△子守唄、二△三△静けき夜、三△二△夜の半、二△二△浦のあけくれ、三年全部△漁夫の子の唄、馬目ツネヨ、△リナチネ、半谷壽子△月見草、獨唱田中教諭、△鹿ひよろ〜、一△一△川邊の道遙、四△二△霧、二△一△ファンハレ、オルガン(獨奏)田中教諭△秋の唄、三△一△ヲイタロー戰闘曲、中井豊子△戀歌、若松モト△あわて床屋、一年全部△水晴蛉、四年全部

平郵便局の 年賀便準備

一昨年の六割

平郵便局にては年賀便取扱開始の爲めに準備中で既に葉書や切手類も豊富に用意されたが一昨年の取扱数の約六割を收受すべしとの見當から來月中旬頃は局員六七名を専務に當らしむる外中學生中の希望者其他を七八名臨時に雇入れるといふ

紛議が解決

橋本署長努力
石城郡大野村玉山鑛泉高木

煙突百五十 違反を嚴戒

平町の煙突はその數三百餘に達し四百五十は其筋に無届のものである爲め平署にては近く一齊に是れが検査を嚴行し違反せるものは嚴重處罰するといふ

不平受付

投書歡迎

道路に馬糞 新川町若松醫院の横に當る南町通りに毎朝濱から秋刀魚や其他の魚類を運搬して來た荷馬車が數聲停留し交通の妨害になる外馬糞を其儘にして置く爲め見苦しいばかりか衛生上にも甚だ悪いお取締りを乞ふ (二寸生)

伊藤平署長の答 市場に來た荷馬車の置き所がない爲めだらうと思ひますが早速調査して善後策を講ずる事に

大根おろしをませて頂くかまた鰹節をかけて頂いても結構です。から味としては、ユズの皮を細くきつたのをふりかけるかまた生ネギを細く切つてかけても風味がよろしいです。生ネギは前にも申上げましたが、身體には大きく、長生の妙薬たそうです。

平町人事

- ▲出生
▲南町 稻島昌三男
▲白銀町 田島太郎氏五男三子男
▲五丁目 岡井鶴治氏長男英政
- ▲婚姻
▲四丁目 鹽田要吉氏(五〇) 同鈴木キミ(四二)
▲堂の前 如中清郎氏(五〇)相馬郡松ヶ江村阿部氏(三五)
- ▲死亡
▲堂の前 山崎藤次郎(三七)
▲南町 沖杉シゲ(一六)
▲白銀町 早川喜太郎(四〇)
▲三丁目 江原四郎治(二三)